

今日のキーワード ギリシャへの「第3次金融支援」実行(欧州)

「第3次金融支援」がギリシャと欧州連合(EU)で合意されました。20日にギリシャは、まず130億ユーロの融資を受け、当面の資金繰りに目途がつけました。ギリシャはユーロ圏に残ることを優先したことから、ギリシャとEUとの信頼が再構築されつつあります。今後、金融支援の条件である緊縮財政の着実な実行により、EUや国際通貨基金(IMF)の支援拡大が期待されます。

ポイント1 ギリシャの当面の資金繰りに目途

緊縮財政の着実な実行が求められる

- 6月末にEUの第2次金融支援が終了し、ギリシャ政府が反緊縮財政を掲げたため、デフォルト(債務不履行)懸念が高まりました。しかし、ギリシャはユーロ圏に残ることを優先する方針を明確にし、緊縮財政を実行に移したため、EUも歩み寄り、今回の合意に達しました。
- 今回の合意で、ギリシャは最大860億ユーロの支援を受けることが可能です。資金の使途は、政府の定例的な支払いの他、債務返済や銀行の資本増強などに利用可能です。一方、ギリシャは、今後数年をかけて、歳出の削減や国有資産の売却により、財政収支の黒字化に向けて、緊縮財政を着実に実行することが求められます。

ポイント2 9月に総選挙実施へ

首相方針への反対議員排除が狙い

- チプラス首相は20日、解散総選挙を実施するために辞意を表明しました。緊縮財政の実行により負担が増す国民や与党内の一部の不満が根強く、政策運営に支障をきたしていることが背景です。首相の個人的な人気は高いとされ、国民の支持を背景に、政権基盤を固める狙いと見られます。
- 総選挙の実施は9月20日が有力と報道されています。

ギリシャを巡る今後の主な予定

時期	主な予定
9月20日頃	総選挙実施
10月末まで	ECBによる、ギリシャの銀行の資産査定などの結果公表 (結果を受けて、ギリシャの銀行の資本増強) ギリシャによる、国有資産の売却計画概要公表
秋頃	EUIによる緊縮財政実行状況の査定 IMFによる支援検討

(注)上記は作成基準日現在の予定であり、今後変更されることがあります。
(出所)各種情報を基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開 緊縮財政を実行する限り、ギリシャ不安が高まるリスクは大きく後退

■IMFの支援再開のハードルは高い

IMFが支援の前提としている債務の一部減免は、今回の合意に含まれず、今秋以降に先送りされています。EUの基本条約は、他国への財政支援を認めておらず、その変更には複雑な手続きが必要です。IMFの第2次支援の期限は来年3月であり、第2次支援の枠組み内でそれまでのギリシャ支援が可能との見方もあります。

■ギリシャの銀行は資本増強へ

現在、欧州中央銀行(ECB)はギリシャの銀行の査定を行っています。10月末までに結果が公表される予定です。その結果、資本増強が実施されれば、銀行の健全性が向上し、欧州の金融システムへの懸念は一層後退する見込みです。ギリシャが、合意内容や緊縮財政を着実に実行する限り、ギリシャ不安が高まるリスクは大きく後退したと見られます。

ここもチェック!

2015年08月12日 ギリシャが銀行の「ベイルイン」を法制化
2015年07月28日 最近の指標から見る欧州経済(2015年7月)

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。